

小学校第6学年 国語科学習指導案

学習指導者 多度津町立四箇小学校 今井 美和

1 単元名「表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう

ー表現に着目して読み、物語の魅力が伝わる読書カードを書こうー（教材名「模型のまち」）

2 単元計画（総時数 9時間【本時6／9】）

- 単元の学習の見通しをもつ。（2時間）
- 中心人物に起きた変化と表現の効果を考える。（5時間）
- 物語の魅力が伝わる読書カードを書き、友だちと伝え合う。（2時間）

3 授業の見どころ

単元の初めに立てた、「物語の魅力伝える読書カードを書くために、その物語に見られる表現の効果について考える」という学習課題に向かって、「色」に着目して表現の工夫を見つけ、その効果を話し合うことで、読みを広げたり、深めたりしていく。

4 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 「色」の表現に着目して友だちと話し合うことを通して、人物の心情を表す表現の効果について自分の考えを明らかにすることができる。
- ・ 表現の効果に着目しながら読むことのおもしろさに気づき、読書活動への意欲を高めることができる。

(2) 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
1 学習課題を確認する。 くり返されている表現は、その場面ごとの亮の気持ちの変化が表されていたよ。 「色」に関する表現も亮の気持ちを表しているのかな。	○ 並行読書のスプレッドシートから、友だちへのコメントを取り上げ、読書への意欲を喚起する。 ○ 前時の学習を振り返り、単元計画表をもとに本時のめあてを確認する。
学習課題 「色」に関する表現には、どのような効果があるのだろう。	
2 「色」に関する表現の工夫を見つけ、その効果について考える。 授業づくりのポイント (1) 「色」に関する表現を選び、タブレット端末上の教材文に線を引き、その効果を端末、またはノートに書き出して画面上で共有する。 「白」が強調されているから、重要な気がするよ。どんな意味があるのかな。 夢の中のまちは、色がついていていたよ。亮の気持ちに変化があったのかな。 (2) 交流したい相手のところに行って話をしたり、新たな考えを作ったりする。 同じ表現について考えている友だちは、違う意見だよ。詳しく聞きたいな。 1つの表現についての効果を考えられたよ。同じような効果が見られる表現がほかにもないか探してみよう。	○ 事前に見つけている、色に関する叙述をカードにして黒板に貼っておくことで、どの表現に着目するかを選択し、その効果を考えることに十分な時間を確保できるようにする。 ○ 相互参照を可能にするため、学習支援クラウドの全文シート上で、着目した表現に線を引き、その効果をテキストボックスに記述できるようにしておく。 ○ 友だちと一緒に考えたり、一人で多くの表現についての効果を考えたり、学習方法を自分で選択することで、主体的に学べるようにする。 ○ 表現の効果を考えることが難しい場合に、亮が初めのうちはどんな気持ちだったのか、叙述に戻って考えられるよう、タブレット端末上にヒントカードを用意しておく。
3 学習のまとめをする。 「色」に関する表現も、亮の気持ちを表していると思ったよ。白は、ひろしまのまちや戦争に現実味をもてないでいた亮を表していると考えたよ。	○ 表現の工夫と亮の気持ちの変化の様子をつないで考えている子どもを意図的に指名し、色に関する表現には、中心人物の気持ちの変化を表す効果があることを引き出す。
4 本時の学びについて振り返る。 「色」に着目して、自分が選んだ物語を見直してみよう。気が付かなかった人物の気持ちが見えてくるかな。	○ 表現の工夫を見つけて話し合ったことで、物語の理解や味わいが深まったことを実感できるよう、振り返りの視点を提示する。

5 単元計画

時	学習活動	教師の指導
1	「もっと本の魅力が伝わる『読書カード』を書こう」という本単元のゴールと、単元で付けたい力を確かめる。 - 物語を読んで、印象に残った言葉や場面、みんなで考えたい問いを書き出し、交流する。	- 教師の作った「読書カード」から、自分の「読書カード」をもっと本の魅力が伝わるようにするには、どのようなことに注意して書けばよいかという課題意識を共有する。(並行読書) - 題名や挿絵を通して、教材文への興味、関心を引き出す。 - 全文を通読後、感想や問いを入力してタブレット端末に保存することで、これからの学習に生かすとともに、学習後の自分と比較できるようにする。
2	学習計画を立てる。	- どんな学習活動を、どんな順に取り組みばよいか、子どもと一緒に学習計画を立てる。 - 単元で付けたい力を確かめ、既習の教材をもとに、関連する学習内容(表現の工夫)について振り返る場を設ける。
3	内容を把握する。 登場人物の確認 物語の構成 (現在→過去→被爆前の広島→過去→現在)	「時」の変化に着目し、物語の構成を確かめる。 - 亮にとって重要な人物はだれかを考え、亮に起きた変化を大まかに捉えられるようにする。
4	- 表現の工夫を見つけ、線を引く。 - どんな表現の工夫を見つけたのかを出し合い、仲間分けをする。	既習教材(注文の多い料理店、ごんぎつね)から見つけた表現の工夫を手掛かりにして、全文から表現の工夫に線を引き、どんな工夫があるのかを仲間分けしていく。 くり返しの表現…ビー玉が何度も出てくる タイトル…模型のまち 色…ビー玉の色、模型のまちの色、空 情景描写 暗示 など
5	「くり返し」の表現には、どんな効果があるのかを「ビー玉」についての記述をもとに考える。	「ビー玉」に関する気になった表現や、人物の気持ちを感じられる表現を探すことで、「ビー玉」には物語の初めと終わりをつなぐ役目があること、かつちゃんたちとの触れ合いと亮が今いる現代の広島をつなぐ役目があるということに気付くことができるようにする。
6	「色」の表現には、どんな効果があるのかを考える。(本時)	前時の学習から、色彩表現は亮の気持ちの変化を表すものであることと捉え、「白い模型のまち」と「色がついたまち」との対比から、「白」が暗示しているものを考えられるようにする。
7	「タイトル」「情景描写」には、どんな効果があるのかを考える。	これまでに学んだことを初発の感想と比較させ、表現に着目して読むことで、物語をより深く読む力がついていることに気付かせる。
8	「模型のまち」の読書カードを書き、物語の魅力を伝える読み方を振り返る。 - 並行読書で読んだ本の中から、おすすめの本を選び、表現の効果を考える。	これまでに学習した、表現の効果を見つける視点を確認し、自分の選んだ本や読もうとする本でも、あてはまるものがないか考えながら読めるようにする。
9	- おすすめの本の「読書カード」をとなりのクラスの子もたちと読み合い、感想を交流する。 - 単元について振り返る。	学習を振り返り、単元を通して「付けたい力」がついたことを実感させ、読書活動への意欲につなげる。